

ゲンノショウコ (現の証拠)

名前の意味^{いみ}：腹痛の薬になる。この草を煎^{せん}じて飲^にませた^{しる}（煮て汁を飲ませた）ところ、すぐに直ったので、この名がついた。

分類：双子葉類、フウロソウ科、フウロソウ属

(フウロソウ科の栽培^{さいばい}植物^{しょくぶつ}：ゼラニウム)

好きな場所：日当たりのよい湿った林の縁

分布：北海道、本州、四国、九州

原産地：昔から日本に生えていた（自生^{じせい}）

特徴：切れ込^こんだ紫色の点がある葉、白から濃いピンクの花、根元に玉のついたロケットのような形の実。

種子の運ばれかた：果実がはじけて飛ばされる

花弁の数^{りべん}：離弁^{れつ}、5裂

花の時期：7－10月

食べ方：食べられないが、腹痛^{ふくつう}の薬になる

見分け方：アメリカフウロとは、茎^{くき}の根元がはうこと、葉の切れ込みが浅いこと、花は少し大きいことで、区別できる。

見つけやすさ ★★

見分けやすさ ★★

総合難易度^{そうごうなんいど} ★★

(★が多いほど量が少なく、見分けにくく、難易度が高い)